

## 水稲経営体による園芸品目の取り組みを支援しています

南加賀農林総合事務所

当事務所管内では、水稲だけでなく、園芸品目にも取り組み複合化を図ることにより、経営の安定化を図る経営体が増えています。小松市のY営農組合でも、水稲・大麦・大豆に加え、平成17年から源助だいこんと青かぶを栽培しています。特に源助だいこんは、肉質が柔らかく荷崩れしにくいいため人気が高く、全量を契約販売しており、取引先からは一層の生産拡大が求められています。

しかし、源助だいこんは、一般的なだいこんと比べて割れや空洞ができやすく、商品化率の低い品種です。加えて昨年は、だいこんの内部が黒くなる生理障害が多発したため、契約数量を確保できないという問題が生じました

このため当事務所では、まず「商品化率の向上」に取り組むこととし、県農林総合研究センターが育成した改良品種を導入し、現地適応性調査を行ったほか、施肥量や出荷規格の見直しなどを行いました。

さらに「計画的な生産・出荷」を徹底するため、播種前の晴天時に畝を立てて土壌水分を調整し、播種時期に降雨があっても計画どおり播種できるようにしました。また、播種後の積算温度に基づいた出荷計画を立てることで、精度の高い出荷予測を実現しました。

これらの取組の結果、単収は6.3 t/10 a（前年比131%）、商品化率は75%（同127%）と前年に比べ大幅に増加し、源助だいこんの栽培を開始依頼、販売額は過去最高となりました。

当事務所では、今後も複合化による園芸品目の取り組みを支援していきたいと考えています。



源助だいこんの播種作業



源助だいこんの収穫風景

問い合わせ先：農業振興部（0761-23-1705）